

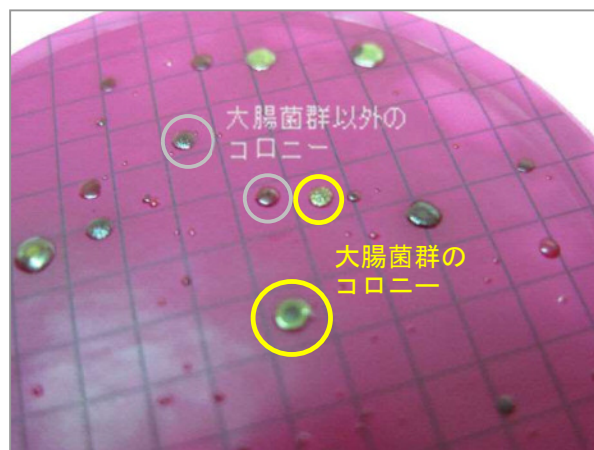
MF-エンドウ培地法

MF-エンドウ培地法は大腸菌群測定方法の1手法です。大腸菌群数の測定方法のうち、菌数を実測値で評価できる手法としては最も感度が高い*方法です。本法は上水試験方法および下水試験方法にも収載されています。

メンブレンフィルター(MF)を用いて試料をろ過することで細菌をフィルター上に集め、そのフィルターをエンドウ培地の上に置いて培養するのが、MF-エンドウ培地法です。

出現したコロニーのうち、暗赤色で金属光沢のあるものを大腸菌群としてカウントします。

培養条件は、 36 ± 1 ℃、 23 ± 1 時間が用いられます。



* 本法で得られる値はコロニー数 (cfu) / ろ過量 (mL) となり、平板培地法の下限值 (1個 / mL) よりも少ない菌数に対応可能です。

大腸菌群とは？

「大腸菌群」は、ヒトおよび動物の消化管内に常在する菌であり、糞便汚染の疑いを示す公衆衛生的な指標として用いられてきました。近年の研究により自然界中にも広く存在することがわかってきましたが、現在でも環境基準や海水浴場などの適合基準として広く用いられています。

東レテクノでは、環境水・上水等、様々な細菌試験に関する検査を実施しております。

参考文献：上水試験方法 (2011)、下水試験方法(1997)